



第13回上田八木・金融政策サーベイ(2017年7月)の結果について

～7月のMPM予想は回答者全てが政策変更なしの見方。10年金利予想DIは前回比30%ポイント上昇の+44で過去最高値。出口開始時期は今から1年以上3年未満との見方が増加(前回72%→今回78%)。

2017年7月18日(火)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 回答者(185先)の全てが7月のMPMで政策変更なしの見方。
- 3か月先の無担保コールON金利予想DI、2年国債金利予想DIは前回から低下。一方10年金利予想は、上昇予想が大幅に増え、DIは+44と前回(+14)よりも30%ポイント上昇した。
- 金融緩和からの「出口開始時期」は、「1年以上3年未満」の見方が78%と前回(72%)より増加。

【調査の概要】

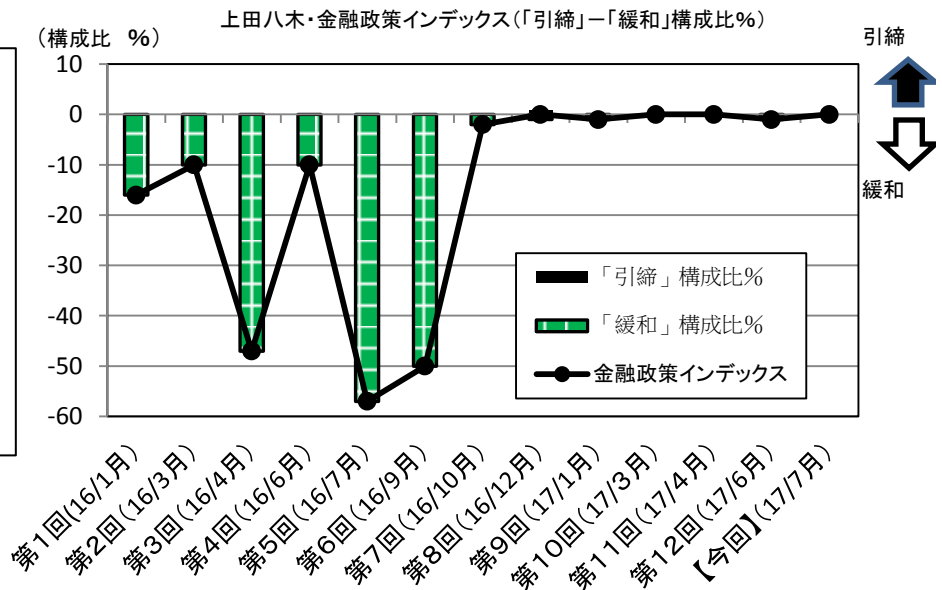
調査方法	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(198先)
調査方法	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2017年7月12日～14日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	93.4% (回答者数185先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

(Q1)日本銀行の次回の金融政策決定会合(7月19日～7月20日)における決定について

回答者の100%が「不変」の見方(前回99%)。

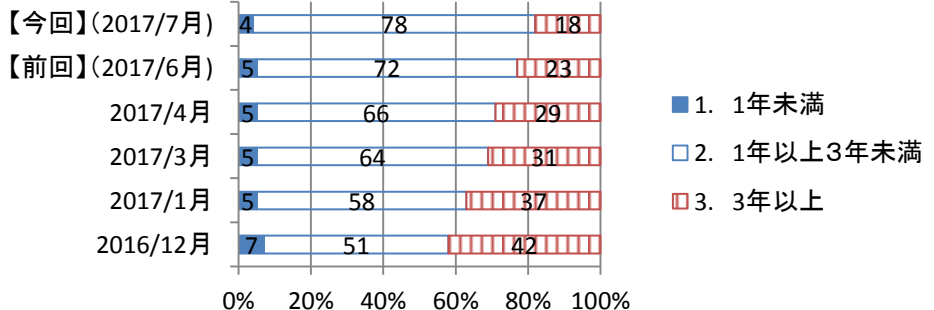
上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、0だった(前回▲1)。



(ご参考)

【今回6回目となる追加質問: Q5】現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は?

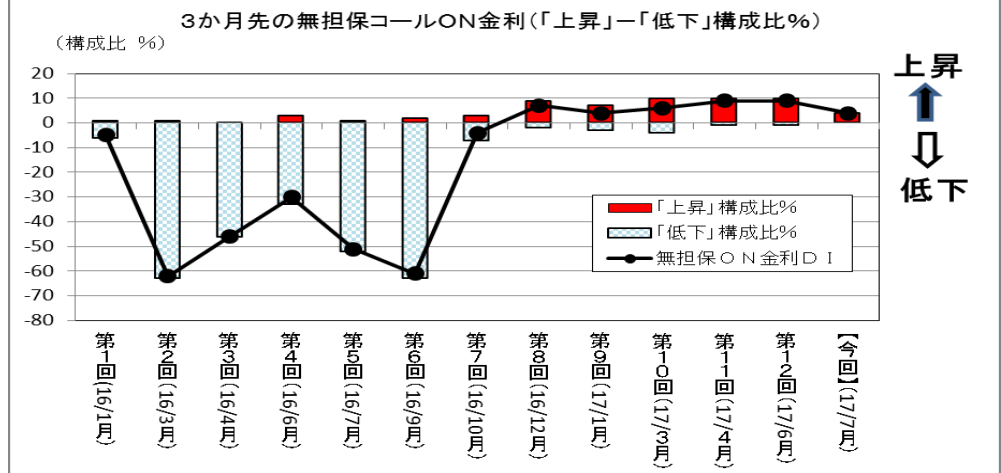
1年以上3年未満と回答する先が78%に増加(前回72%)。



(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の96%が「不変」と予想。0%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は4%だった。

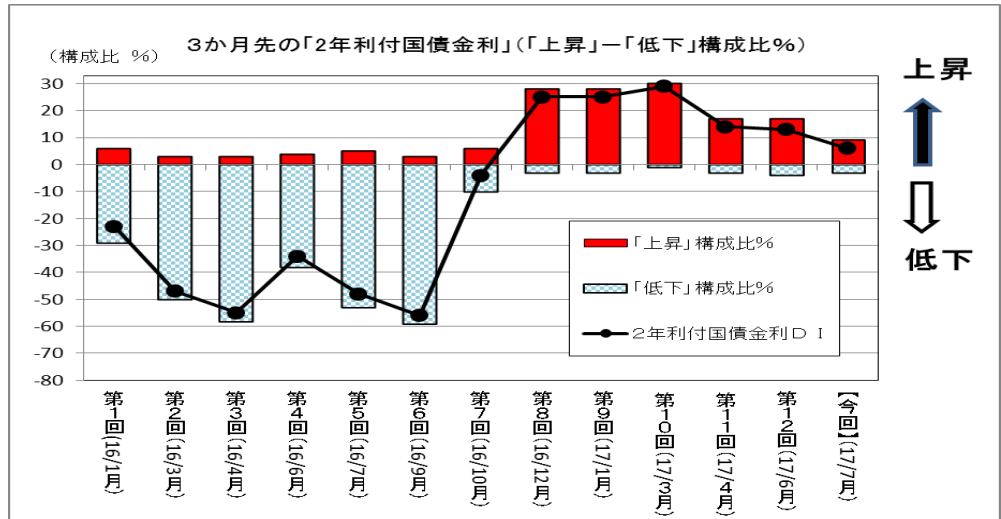
前回との比較では、「低下」とみる先は▲1%ポイント(前回1%→今回0%)。
 「不変」とみる先が+7%ポイント(前回89%→今回96%)。
 「上昇」とみる先は▲6%ポイント(前回+10%→今回+4%)。



(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の88%が「不変」を予想。3%が「低下」。「上昇」を予想した先は9%であった。

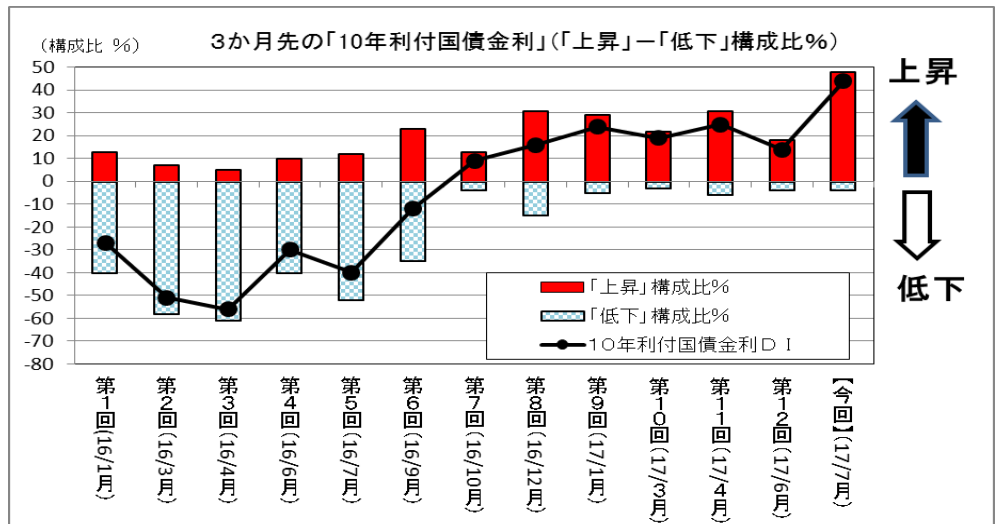
前回との比較では、「低下」とみる先は▲1%ポイント(前回4%→今回3%)。
 「不変」とみる先が+9%ポイント(前回79%→今回88%)。
 「上昇」とみる先は▲8%ポイント(前回17%→今回9%)。



(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の48%が「不変」を予想。4%が「低下」。「上昇」を予想した先は48%と大幅に増加。

前回との比較では、「低下」とみる先は前回と同じ(4%)。
 「不変」とみる先は▲30%ポイント(前回78%→今回48%)。
 「上昇」とみる先は+30%ポイント(前回18%→今回48%)。



【本調査に関する照会先】
 企画部 島本、酒井 (電話 03-3272-0293)